

農業会議だより

第47号(令和6年1月)発行：一般社団法人佐賀県農業会議

1. 新年のごあいさつ
2. 農業者年金加入推進セミナー、全国農業委員会会長代表者集会、国会議員への要請活動
3. 地域計画に関する Q&A
4. 農業委員会職員地区別研修会
5. 地域計画策定推進研修会
6. 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会開催のお知らせ
7. 九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会
8. 神崎市農業委員会の取り組みについて
9. やってみようセミナー開催のお知らせ（いちご・なす）
10. 農業者年金の加入推進について
11. 全国農業新聞普及推進・全国農業図書紹介
12. 常設審議委員会の結果（11・12月）
13. 行事予定

1. 新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

農業委員会、関係機関・団体等会員の皆様におかれましては、日頃より当会議の業務推進について、ご協力とご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年は新型コロナが5類に引き下げられ、ようやくコロナ前の生活に戻ってきております。農業を取り巻く情勢については、気象災害や食料安全保障上のリスクの高まり、燃油・資材の価格高騰、さらに担い手不足などの課題があり厳しい状況にあります。また、県内においては、県北部を中心に大雨による土砂崩れなど大きな被害が発生し、被害に遭われた方々には、お見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧を願っております。

さて、農業委員会においては昨年13市町で改選が行われ、県内555名の農業委員・農地利用最適化推進委員のうち約3分の1にあたる178名が新任委員となりました。今年は4市町で改選となります。農業委員と農地利用最適化推進

委員のひとりひとりが委員としての役割をしっかりと理解し、農業委員会が一丸となって農業委員会活動にまい進していただきたいと思えます。

また、農業の担い手が減少する中で、各市町では将来の農地利用の在り方を示した「地域計画」を策定することとなり、農業委員会では「目標地図」の素案を作成することとなっております。本年は策定に向けた取り組みが本格化しますので、JA・土地改良区等の関係機関との連携のもと、農業委員・推進委員の皆様が地域の農業者の代表として、地域計画策定にご尽力いただきますようお願いいたします。

今後とも農地利用の最適化をはじめとした農業委員会活動が円滑に推進できるよう農業会議の役割をしっかりと果たし、支援をさせていただく所存でございますので、ご協力をお願い申し上げます。

皆様方の益々のご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2. 令和5年度農業者年金加入推進セミナー及び全国農業委員会会長代表者集会、県選出国會議員への要請活動

○日時：令和5年11月29日（水）～30日（木）

○場所：東京都「銀座ブロッサム中央会館」、「国会議員会館」、
「文京シビックホール」

○参加者 20名

佐賀市（大園会長、吉田副会長、北村委員、田中委員）、唐津市（山崎会長）、鳥栖市（篠原会長）、多久市（永淵会長）、武雄市（佐佐木会長）、鹿島市（中村副会長）、小城市（秋丸副会長）、嬉野市（石橋会長）、神崎市（西村会長）、みやき町（寺田会長）、玄海町（越路会長）、有田町（藤会長）、大町町（武村委員）、白石町（片淵会長、岩永係長）、農業会議事務局（溝口専務理事、徳永課長）

【11月29日（水）】

令和5年度農業者年金加入推進セミナー

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶 全国農業者年金連絡協議会
代表 國井正幸 氏
- (3) 来賓挨拶 農林水産省
経営局長 村井正親 氏



農業者年金加入推進セミナーの様子

(4) 研修①

演題：農業者年金制度と加入推進

講師：独立行政法人農業者年金基金 理事長 黒田夏樹 氏

《主な内容》

- ・農業者年金制度の特徴とメリットについて
- ・老後生活の安定には農業者年金への夫婦加入がよい。
- ・農業者年金制度の周知が十分ではないため、農業委員会とJAと連携し、戸別訪問の積極的な取り組みをお願いしたい。

(5) 研修②

演題：老後資金準備の必要性と農業者年金

講師：西田ファイナンシャルプランナー事務所

農業専門ファイナンシャルプランナー 西田凌 氏（佐賀市）

《主な内容》

- ・長生きの時代が到来し、老後資金準備の必要性が高まっている。
 - ・老後資金の目安額を理解し、適切に準備しておくことが大切。
 - ・農業者年金は老後資金準備の課題解決への最適な選択肢。
- 積立方式で終身年金、税制面の優遇措置、保険料の補助など制度仕組みとサポート体制がしっかりしている。

(6) 加入推進に関する活動事例報告

①茨城県行方市農業委員会 係長 箕輪栄三郎 氏

②徳島県藍住町農業委員会 加入推進部長 安崎三代子 氏

(7) 農業者年金の加入推進に向けた申し合わせ決議

【11月30日（木）】

県選出国會議員への要請活動

全国農業委員会会長代表者集会で決議予定の要請書と本県独自の意見書をもとに、県選出国會議員に要請し、意見交換を行いました。

【主な意見等の内容】

- 燃油、肥料など生産資材の価格高騰が続き、農業経営の大きな負担になっている。営農が継続できるようしっかりと対応して欲しい。
- 地域に担い手がいない。特に中山間地域は顕著である。担い手を育て農地を守るための支援の充実をお願いしたい。
- 水田の畑地化支援については、地域の実情に応じた対策をお願いしたい。
- イノシシ等の鳥獣被害により営農意欲が低下している。鳥獣被害対策の予算を充実・強化して欲しい。
- 太陽光発電施設の設置については、使用済みパネル廃棄時の経費を積み

立てる仕込み等のルールを早急に示して欲しい。

○本年10月から始まったインボイス制度に関して現場は混乱している。

令和5年度全国農業委員会会長代表者集会

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶 一般社団法人全国農業会議所 会長 國井正幸 氏
- (3) 来賓挨拶 農林水産大臣 宮下一郎 氏
衆議院 農林水産委員長 野中厚 氏
参議院 農林水産委員長 滝波宏文 氏
農業委員会等に関する議員懇話会 会長 坂本哲志 氏
- (4) 要請決議、申し合わせ決議、活動事例報告

①要請決議

第1号議案 令和6年度農業関係予算の確保及び農地・担い手等関連施策に関する要請決議

②申し合わせ決議

第2号議案 「地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る全国運動」の推進に関する申し合わせ決議

第3号議案 「情報提供活動」の一層の強化に関する申し合わせ決議



全国農業委員会会長代表者集会

③活動事例報告

(1) 「地域計画策定に向けた農業委員等の積極的な関わり」

宮崎県宮崎市農業委員会 会長 川越正彦 氏、次長補佐 長谷川恒徳 氏
・地域計画、目標地図の作成に向けて、会長のリーダーシップのもと農業委員・推進委員に具体的な役割を示して取り組んでいる。

・話し合いは地区ごとにグループワークの手法で実施され、現況地図をもとに地域の課題や10年後の農地を誰が、どのように守っていくのか等について意見交換を行っている。

(2) 「地域計画策定の取組み」

福井県若狭町農業委員会 会長 中塚文和 氏

・地区ごとに町職員、農業委員・推進委員を配置しチームを構成され、グループワークの手法で話し合いを行っている。

・「瓜生地区で目標地図の第一案作成」、「瓜生北部地区の水田基盤整備事業」、「仮屋集落の復田対策」の取組事例についても紹介。

(3)「若者が帰り、遊休農地を活力ある大地に」

長野県長野市農業委員会 会長 青木 保 氏

- ・基盤整備事業により園地を整備し、リンゴ産地の復活に向けた取組を事例報告。
- ・基盤整備事業を活用することで遊休農地の解消、担い手の若返り（世代交代、新規就農者の確保）、既存農家の規模拡大に結び付いた。

3. 地域計画に関するQ & A

Q. 令和7年3月31日までに市町全域で完璧な目標地図を作らなければならないのですか。

A. 目標地図には農地1筆ごとに「農業を担う者」を特定し、色を塗って表示することになりますが、受け手が見つからなかったり、調整が見つからない農地は「今後検討等」として色を塗らなくても構いません。大事なことは、令和7年度以降も継続して話し合いや調整を続け、「今後検討等」とした農地について農業を担う者を特定し色を塗る取組みを継続することです。

Q. 担い手がないのに地域計画など作れません。どうすればよいですか。

A. 地域計画における「農業を担う者」には、担い手（認定農業者、認定新規就農者、組織化された集落営農、市町村基本構想到達者）のほか、中小規模の経営体、農業を副業的に営む経営体、委託を受けて農作業を行う者などの多様な経営体が含まれます。担い手がない地域は、多様な経営体によって農地を維持し、徐々に担い手や新規就農者を地域の中で育成したり、地域外からの法人参入も含めて担い手を招致するなどの取組みを継続してください。

Q. 全集落で話し合いをすると令和7年3月31日までに地域計画を策定できません。

A. まずは人・農地プランの区域を想定し、必要に応じて区域を追加したり分けたりしてください。なお、これまでの各種組織の取組みにおいて、目標地図相当のものがなくよく確認してください。

Q. 目標地図に色を塗るためには、権利設定の調整を行い、了解を得なければならぬのですか。

A. 地域計画は将来の農地利用のイメージであり、権利設定までは求められていません。ただし、「農業を担う者」として位置付ける者には、地域計画、目標地図に氏名を掲載し公表することの同意を得る必要があります。

Q. 令和7年3月31日以後にはどんなことが求められますか。

A. 話し合いを継続して地域計画を更新していくこと、地域計画の実現に向けて実行することが大切です。特に農業委員会には、農地中間管理機構を活用した農地の利用調整を行うことが期待されています。

4. 地域計画を進めるため～農業委員会職員地区別研修会を開催～

佐賀県農業会議（会長：大園敏明）は佐賀県農業委員会職員協議会（会長：福岡緑）との共催で10月19日～11月17日に県内4地区で研修会を開催し、農業委員会職員ら106名が参加されました。

研修会では、まず、地域計画に係るグループ討議を行いました。グループ討議では①農業委員会と農政部局との協議の状況②意向調査の進捗状況について③地域での協議の場の開催について④目標地図の作成などについて意見交換をしました。また、農地法や農業経営基盤強化促進法などに係る質疑応答を行いました。参加者からは「地域計画を進めるために役立った。」、「地域計画について他の市町の状況がわかった。」、「同じようなグループ討議形式の研修会をやって欲しい。」などの意見がありました。



5. 地域計画の策定を進めよう～地域計画策定推進研修会を開催～

農家の高齢化や後継者不足などにより、地域の農地を農地として維持することが難しくなっています。将来にわたって地域の農業と農地を守っていくためには、誰が耕作をするのか、また、耕作を担う者が経営しやすい環境をどう整えていくかなどを考えなければなりません。このことを地域が一体となって考えていくことが、地域計画の策定の取り組みです。



澤畑佳夫氏

地域計画とは、具体的には地域の将来の農地利用の在り方を現況地図やアンケートを基に話し合いを重ね、10年後の耕作者を示した目標地図を作成するというものです。地域計画は令和7年3月までに市町が策定することとなっており、県内20市町で計680地区の策定が予定されています。

佐賀県は地域計画の策定の取り組みを推進するために、11月24日（金）、佐賀市において「地域計画策定推進研修会」を開催し、県地域農業振興センター、市町農政課、農業委員会、JA、土地改良区等の職員など約150名が参加しました。

研修会では、まず、江北町の担当者が、大判の現況地図を囲んで協議をすることで、出席者がどこを誰が耕作しているのか分かっているのが、農地の交換など様々な意見が出されたと報告。

また、基山町の担当者は、町全体の農地の約10%にあたる農地が今後数年間で住宅などに転用され、農地が売れることを期待している所有者がいる中で、地域農業の将来を描くのが難しいと悩みを話されました。

次に、元茨城県東海村農業委員会事務局長で、現在は全国農業会議所専門相談員及び地方考夢員研究所代表の澤畑佳夫氏から「地域計画の策定 押さえておかなければならないポイント!」と題して講演がありました。

地域の懇談会は、行政などの関係者、農業委員・農地利用最適化推進委員、認定農業者らと役割分担を話し合ったうえで始めて欲しい。決して行政主導型になり、参加者から行政批判やクレームの場とならないように配慮して実施することが大事と話されました。また、限界集落などの場合は守るべき農地か判断した上で、その農地を本当に活かすのかを含めた話し合いをすること。さらに、「農業の問題は地域の問題で農家だけでは解決できない。自治会や町作りの視点から地域の人も話し合いに参加できるような工夫をして欲しい。」と力説されました。

参加者からは「話し合いが農家からの苦情の場にならないか心配だ。」「既に行政任せの地区があるので話し合いに前向きになれない。」といった悩みの声があった一方で、「話し合いのスキルアップ研修会を開催して欲しい。」といった前向きな意見もありました。

6. 研修会開催のお知らせ

当会議では、「令和5年度第2回 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（地域計画の策定に向けた取組推進研修会）」を以下のとおり予定しています。是非ご参加ください。

○日時・場所

令和6年1月25日（木）13:30～15:45 上峰町「上峰町民センター」

令和6年1月26日（金）13:30～15:45 玄海町「玄海町町民会館」

○内容

（1）農地制度をめぐる情勢について

一般社団法人全国農業会議所

（2）事例報告

「地域農業の維持に向けて ～話し合いを通じた課題解決への道すじ～」

①株式会社北山神水川ファーム（佐賀市富士町）

②川古集落営農組合（武雄市若木町）

（3）その他

○参集範囲

市町農業委員会、市町農政部局、JA、県土地改良事業団体連合会、土地改良区、県農業経営課、農業振興センター、農業公社

7. 九州・沖縄ブロック農業委員会女性員研修会が熊本で開催 ～九州・沖縄の女性委員が一堂に会する～

九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会が11月13日～14日に熊本県熊本市で開催され、九州・沖縄ブロックの女性農業委員・農地利用最適化推進委員と農業委員会事務局職員等を含めた344名が参加されました。

研修会では、全国農業会議所農地・組織対策部の堀江光正部長から「食料・農業・農村基本法の見直しと農業委員会」について情勢報告後、ちこちゃん劇団と玉名市農業委員会による「食料・農地、そして私たち」と題した寸劇が行われました。

とある農業委員会的一幕を演じた寸劇は、新任で農業委員になった女性が、農業委員会の仕事を積極的に取り組もうとする雰囲気薄い農業委員会を変えろという内容。参加者からは、「身近な感じでわかりやすく、よかった」「事前の根まわしが大事だと思った」等の声が聞かれました。

その後、各班に分かれてワークショップが行われました。ワークショップでは「①食料と農地のために私たちができることは」「②女性委員の登用を進めるためには」「③その他、女性の視点を活かした農業委員会活動などに関すること」の3つのテーマから各班で1つ選び、議論が行われ、翌日、議論した内容の発表が行われました。



ワークショップの様子

参加者からは「他の県の活動を聞くことができよかった。」「色々な意見を聞けて、今後の活動の意識付けになった。」等の声が聞かれました。

令和6年度の九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会は佐賀市で令和6年11月20日～21日に開催予定です。



次期開催県のあいさつをする

佐賀県農業委員会女性協議会のメンバー

8. 神崎市農業委員会の取り組みについて

神崎市農業委員会（会長：西村睦雄）では「委員は誰か一人ではなく、ともに動く」を念頭に、農業委員と農地利用最適化推進委員の共同活動による地域の農地利用の最適化を推進しています。

現体制は、農業委員13人、推進委員20人で、市内13地区（今期の委員では12地区）を農業委員1人、地区担当の推進委員1～2人による活動班を結成し、「あぜ道立ち話」の充実と現場活動等に取り組んでいます。

毎年の農地利用状況調査では、7～8月に各活動班が担当地域を農地パトロールを行い、問題があった農地等は、各班で再度の現地調査を実施



現地調査の様子

し、関係者への働きかけ等を行って、問題の解消等に努める活動を継続して取り組んでいます。

「複数の目で判断できる強みが活動班体制にはある」（事務局）ことが重要だが、「一人では億劫な活動も、皆でやるとなると腰が上がる。」「活動中の個々の違った意見には嫌な思いをするが、そのうち自分の考えや選択肢が増えている気がする。」「互いの体調を気遣いながら懇親会もやっている。」（委員談）との好意的な意見があります。

神埼市の遊休農地は令和3年度の42.6ha（遊休農地率1.38%）から令和5年度（暫定値）の43.1ha（同率1.40%）と横ばい推移しています。新規発生と同じ規模の農地が荒廃地へと推移しているのが現実で、中山間地域の山林原野化した農地の非農地化による「守るべき農地の明確化」は捗々しくない状態です。

そのような中、野田副会長（中立委員）は、自分の担当地区の将来を見据え、守るべき農地を重点管理するため、荒廃地の非農地通知の発出から地目変更登記申請まで行っています。



月例の勉強会の様子

また、活動班の推進委員と話し合い「月例の勉強会」を実施。自身が毎月約10ページの資料作成をしています。さらに、月に1回の合同巡回（農地パトロール）を現在は月2回に増やして実施しています。野田副会長は「委員が農業者の困っていることに気付いていない。委員は積極的に農業者の中に入り、農業者が困っていることを見つけ、地区の集会で積極的に情報提供をする等、農業者に対して受動態でなく能動態で活動すべきだ。」と話す。

そのためにも神埼市農業委員会では活動記録簿を重要視しており、各委員が実施したちょっとした現地活動等も確実に活動記録簿に記載して事務局へ毎月10日に提出するようにしています。

地域計画の策定に向けて、地域の農業者の意向把握や農地集積のきっかけ作りをし、その地域に合った農地利用の最適化を進めるため農業者の話し合いを促すことが重要であるので、委員が活動記録簿に記した活動を各活動班の中で共有した後、他の委員や事務局と情報共有することで、次の最適化活動へと繋がることを期待しています。

佐城・三神

いちご

やってみよう セミナー

参加費
無料

就農をお考えの方へ
いちご栽培の紹介セミナーです
お気軽にご参加ください！



開催
日時

令和6年

1月 21日 (日)

9:30 ~ 12:00 (受付 9:00~)

会場

JAさが神埼営農経済センター

〒842-0003 神崎市神埼町本堀2720番地

応募
締切

令和6年 **1月 11日 (木)**

※応募者多数の場合、ご希望に添えない場合があります

対象

佐賀市・多久市・小城市

鳥栖市・神埼市・吉野ヶ里町・基山町・上峰町・みやき町

で就農希望の方

内容

① いちごハウスの見学

② 室内研修（経営事例紹介 ほか）

※ 動きやすい服装でお越しください



同日開催
なすやってみようセミナー
13:30~16:00(受付13:00)
同会場にて開催します
こちら是非ご参加ください



こちらから
応募できます

<申込先>

JAさが 佐城エリア 佐城園芸センター園芸指導課 (中部)

TEL 0952-29-9750

佐城園芸センター園芸指導課 (佐城野菜)

TEL 0952-72-5137

佐賀県佐城農業振興センター

TEL 0952-45-8888



さが農業888運動

主催：JAさが 佐城エリア 佐城園芸センター、JAさが 三神エリア 三神園芸センター

共催：JAさが佐城三神いちご部会、佐城地区青年農業者対策協議会、三神地域の青年農業者を育てる会
佐城農業改良委員会、三神農業改良委員会



佐城・三神

なす



やってみよう セミナー

参加費
無料

就農をお考えの方へ
なす栽培の紹介セミナーです
お気軽にご参加ください！

開催
日時

令和6年

1月 21日 (日)

13:30 ~ 16:00 (受付 13:00~)

会場

JAさが神埼営農経済センター

〒842-0003 神埼市神埼町本堀2720番地

応募
締切

令和6年 **1月 11日 (木)**

※応募者多数の場合、ご希望に添えない場合があります

対象

佐賀市・多久市・小城市

鳥栖市・神埼市・吉野ヶ里町・基山町・上峰町・みやき町

で就農希望の方

内容

① なすハウスの見学

② 室内研修（経営事例紹介ほか）

※ 動きやすい服装でお越しください



こちらから
応募できます

同日開催

いちごやってみようセミナー

9:30~12:00(受付9:00)

同会場にて開催します

こちら是非ご参加ください

<申込先>

JAさが 佐城エリア 佐城園芸センター園芸指導課（中部）

TEL 0952-29-9750

佐城園芸センター園芸指導課（佐城野菜）

TEL 0952-72-5137

佐賀県佐城農業振興センター

TEL 0952-45-8888

主催：JAさが 佐城エリア 佐城園芸センター、JAさが 三神エリア 三神園芸センター

共催：JAさが施設なす部会、佐城地区青年農業者対策協議会、三神地域の青年農業者を育てる会
佐城農業改良委員会、三神農業改良委員会



さが園芸888運動

SAGA 888 運動

10. 農業者年金の加入推進について

○令和5年度農業者年金 加入実績

市町名	目標	加入状況	達成率
佐賀市	8	7	88%
唐津市	12	8	67%
鳥栖市	1	1	100%
多久市	1	1	100%
伊万里市	4	5	125%
武雄市	2	2	100%
鹿島市	3	2	67%
小城市	3	2	67%
嬉野市	2	0	0%
神埼市	2	1	50%

市町名	目標	加入状況	達成率
吉野ヶ里町	1	0	0%
基山町	1	0	0%
上峰町	1	0	0%
みやき町	1	2	200%
玄海町	2	4	200%
有田町	1	0	0%
大町町	1	0	0%
江北町	1	3	300%
白石町	7	6	86%
太良町	3	0	0%
計	57	44	77%

	目標	加入状況	達成率
20歳から39歳の新規加入者	36	24	66.7%
女性の新規加入者	28	17	60.7%

11月時点での新規加入状況は上表の通りです。

各市町で加入推進強化月間に入りました。引き続き活発な加入推進活動をお願いします。

○農業会議では、現在ラジオCM及びインターネット広告を実施中です。

ぜひこの期間に戸別訪問や集会等での推進をお願いいたします。

(ラジオCM)

- ・ラジオ局 FM佐賀、NBC ラジオ
- ・期間 12月～1月の2ヶ月間
- ・放送回数 1日に1、2回程度
- ・その他 ラジオ番組内での制度紹介も予定しています。

(インターネット広告)

- ・県内の農業者をターゲットに、スマートフォンの様々なアプリやホームページ等で農業者年金のバナー広告（次頁参照）が出てきます。
- ・バナーをクリックした際に農業者年金基金のホームページ (<https://www.nounen.go.jp>) に移動するように設定しています。
- ・若い農業者をターゲットとして、音楽配信アプリ「Spotify」でも農業者年金の音声広告が流れます。

〈広告のデザイン〉

国民年金に上乘せの
農業者年金なら
老後はきっと
安心ネ～

農業者なら誰でも入れます！
お問い合わせは
お近くのJAまたは農業委員会まで
詳細はこちらをクリック！



農業者なら **農業者年金**
国民年金に上乘せの **入れるネ～**
公的年金だから老後も安心、
よかったネ～ **こちらをクリック！**



農業者の老後の安心なら国民年金ともうひとつ
農業者年金 **こちらをクリック！** **がいいヨ～**



〈掲載サイト〉※一部抜粋



FNN

価格.com



東スポWeb

Uta-Net

NumberWeb

OZmall



11. 全国農業新聞・全国農業図書を紹介

○全国農業新聞

市町	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読数
佐賀市	213	167	46	0
唐津市	143	101	42	24
鳥栖市	54	43	11	0
多久市	58	50	8	0
伊万里市	89	68	21	4
武雄市	93	65	28	0
鹿島市	93	69	24	0
小城市	73	46	27	27
嬉野市	75	50	25	3
神埼市	98	67	31	1

市町	目標	部数	目標達成 まで	委員 未購読数
吉野ヶ里町	44	32	12	8
基山町	28	17	11	1
上峰町	23	17	6	2
みやき町	44	45	達成	0
玄海町	36	26	10	0
有田町	43	33	10	3
大町町	22	15	7	0
江北町	46	41	5	1
白石町	76	54	22	8
太良町	53	41	12	0
農業会議	96	88	8	
	1,500	1135	365	82

1月時点での購読状況は上記のとおりです。

最近では農業委員だけでなく、土地改良区からも購読の申込をいただいております。全国農業新聞は農業委員会系統組織が発行する農業新聞で、地域計画の策定に向けた先進事例の記事が掲載されています。

農業委員会だけでなく、地域計画に関わる機関・団体等も是非購読をお願いします。

最近の地域計画関係の注目記事

- ・11月24日号 新潟県阿賀野市農業委員会
内容：農業委員・推進委員を対象としたマニュアル（制度の概要や具体的な動き方、話し合いの中で気をつけること等をまとめたもの）を作成。農業委員・推進委員がコーディネーターとして集落での話し合いを進める。
- ・12月1日号 山形県寒河江（さがえ）市農業委員会
内容：土地改良区と連携し、基盤整備事業と地域計画策定を一体的に推進。
- ・12月8日号 神奈川県厚木市農業委員会
内容：農業委員会サポートシステムや「AI-OCR」を活用し、意向調査業務の効率化と事務局の負担軽減。

○全国農業図書

刊行一覧はこちら⇒ <https://www.nca.or.jp/tosho/>

農地法の解説 改訂第4版

法律の条文ごとに、政令、省令、事務処理基準、運用通知、事務処理要領などの基本的な通知だけでなく、過去の通達や照会への回答、判例等も引用し、順序立てて農地法の全体像を基礎から詳細まで分かりやすく説明した解説書です。

令和4年度以降の農地制度関係の改正に対応しています。

【税込 3,630 円】



令和6年度経営所得安定対策と米政策

【1月22日刊行予定】

主食用米の需要が減少傾向にあることを踏まえると、令和6年産についても引き続き飼料用米等への作付け転換が重要です。

そのためには、政策支援を活用して、関係者が一丸となって適正生産量を目指す取り組みが欠かせません。

本パンフレットでは、令和6年度の米政策や経営所得安定対策、収入保険制度などの仕組みをまとめています。

【税込 110 円】



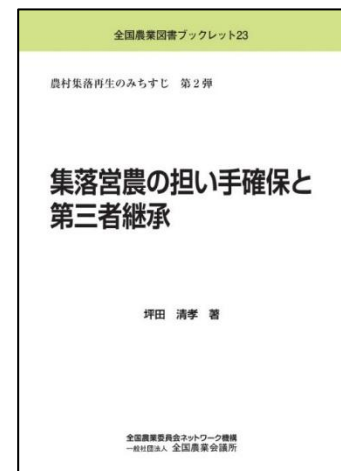
集落営農の担い手確保と第三者継承

筆者は県外から招いた担い手に第三者継承を行った、集落営農組織「株式会社グリーンファーム^{すみや}角屋」の元代表取締役。

高齢化する農村集落を維持するには担い手を確保することが最重要であり、そのためには経営の多角化による儲かる農業へのシフトが必要と説かれています。

担い手探しから育成、そして代表を委譲するまでの経過を辿るとともに、業務用・加工用野菜の生産や加工品の製造・販売をはじめとする担い手と二人三脚で挑んできた所得拡大に向けた奮闘ぶりがつづられています。

【税込 880 円】



12. 常設審議委員会結果（令和5年11・12月）

農地法第4条及び第5条の規定により県農業委員会ネットワーク機構(佐賀県農業会議)に意見を求められた案件について、常設審議委員会において審議されました。

第92回、第93回の件数及び面積については、以下のとおりです。

<農地法関係処理状況>

○審議件数

回数	開催日	区分	件数
第92回	11月15日	第4条	1
		第5条	7
第93回	12月15日	第4条	-
		第5条	1

○田畑別件数及び面積(m²)

※田・畑の混合案件があるため、件数の計が一致しない。

回数	開催日	区分	田		畑		計	
			件数	面積	件数	面積	件数	面積
第92回	11月15日	第4条	1	4,516	0	-	1	4,516
		第5条	6	47,911	3	8,656	7	56,567
第93回	12月15日	第4条	0	-	0	-	0	-
		第5条	1	20,482	0	-	1	20,482

13. 今後の行事予定

月	日	時間	場所	内容
1	15	13:30	佐賀総合庁舎	第94回常設審議委員会
	22	13:30	佐賀総合庁舎	農業委員会女性協議会役員会
	25	13:30	上峰町民センター	令和5年度第2回農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（東部ブロック）
	26	13:30	玄海町民会館	令和5年度第2回農業委員・農地利用最適化推進委員研修会（西部ブロック）
2	9	13:30	千代田館	市町農業委員会事務局長会議
	15	13:30	佐賀総合庁舎	第95回常設審議委員会
	21	13:30	グラウンデはがくれ	農業委員会職員研修会（目標地図作成）
	22	13:30	佐賀総合庁舎	農業委員会女性協議会研修会

農業会議だより及び全国農業新聞の記事募集について

農業委員・推進委員、農業委員会事務局職員及び関係機関の皆様より、この農業会議だより及び全国農業新聞に掲載してほしい記事を募集しています。採用された方には粗品を進呈します。

問い合わせは、TEL：0952-20-1810 E-mail：sanoukai@sanoukai.jp
担当：佐賀県農業会議 竹下